



キラッと★ちゃ・ちゃ・ちゃんねる



このコーナーでは毎月、町の子育て支援情報など、「子ども」に関する情報をお伝えしています。
今回は9月号に続き、町内の児童施設で、日々の体験の中からさまざまなことを学び、「生きる力」の土台となる力を
育てている子どもたちの様子が垣間見える一場面を紹介します。

育ちの芽 vol.2

海の日を含んだ3連休の休み明け、登園してきたBくんが「O先生、なつかしい!」と第一声。「え!? なつかしい?」と自分の髪型や服装が古風だったかと気にするO先生ですが、普段と特に変わった様子はありません。すると、近くにいたCちゃんが「うんうん。なつかしいよね! なつかしいってうか、久しぶりだよね」、Dくんも「うんうん、久しぶり!」と会話に入ってきました。CちゃんとDくんの会話を聞いて「3回休んだから、なつかしい!」と、O先生に抱きつくBくん。今年4月の入園当初は慣れない園生活に不安を感じていた様子のBくんでしたが、徐々に園生活に慣れてきた夏休み前のわずかな休暇で「なつかしい!」と思ってくれたことを、O先生はうれしく感じました。～あづま幼稚園・4歳児クラスから～



O先生のまなざし

Bくんはきっと「3日休んだので、久しぶりに感じる」という意味で「なつかしい」という言葉を使ったのでしょう。今年4月の入園当初は幼稚園での生活に不安を感じていた様子のBくんでしたが、このころには、だんだんと幼稚園が楽しみになり、友だちや教師に対して「また会えてうれしい」という感情を持てるようになってきたようです。このことはBくんにとって、正しく言葉を使い分けることよりも大事な成長なのではないかと感じました。さまざまな体験とおして生まれてきた感情を、自分の知っている言葉で表現しようとする子どもの姿を大人が大事にしていくことで、子どもたちは次第にその場に合った「ことば」を使いこなすようになっていくのではないかと考えています。

※今後も不定期で、各児童施設での子どもたちの様子を紹介します。

【担当・問合せ】 こども課 こども室 ☎672-2111 内線3190

「いちはやく 知らせる勇気 つなぐ声」～11月は児童虐待防止推進月間です～

児童虐待とは、殴る・蹴るなどの暴力だけではなく、子どもの心を傷つけることや、衣食住の世話をしないことなども指します。心や体を深く傷つける虐待から子どもたちを守るためには、一刻も早く虐待の兆候に気付き、必要な支援につなげることが大切です。

次のような親子の様子に気付いたら、迷わずにこども課または県福祉総合相談センターまでご相談ください。連絡者や相談内容に関する秘密は守られます。

子ども

- いつも保護者の怒鳴り声と子どもの泣き叫ぶ声が聞こえる
- 不自然な傷や打撲の痕がある
- 衣類や体がいつも汚れている
- 落ち着きがなく乱暴である
- 表情が乏しい、活気がない
- 夜遅くまで一人で遊んでいる



保護者

- 地域などと交流が少なく孤立している
- 小さい子どもを家に置いたまま外出している
- 子どもの養育に関して拒否的、無関心である
- 子どものけがについて不自然な説明をする



●虐待の種類

〈身体的虐待〉殴る／蹴る／叩く／投げ落とす／激しく揺さぶる／やけどを負わせる／溺れさせる など

〈心理的虐待〉言葉による脅し／無視／兄弟間での差別的扱い／子どもの存在を否定するような言葉を浴びせる／子ど

もの目の前で家族に対して暴力を振るう(DV) など
 〈性的虐待〉子どもへの性的行為／性的行為を見せる／ポルノグラフィの被写体にする など
 〈ネグレクト(育児放棄)〉家に閉じ込める／食事を与えない／ひどく不潔にする／自動車の中に放置する／重い病気になっても病院に連れて行かない など

子どもを健やかに育むために ～愛の鞭ゼロ作戦～

子育てにおいて、しつけと称して、叩いたり怒鳴ったりすることは、子どもの成長の助けにならないばかりか、悪影響を及ぼしてしまう可能性があります。

以下のことを意識しながら、子どもと向き合みましょう。

- ① 子育てに体罰や暴言を使わない
- ② 子どもが親に恐怖を持つとSOSを伝えられなくなる
- ③ 爆発寸前のイライラをクールダウン
- ④ 親自身がSOSを出そう
- ⑤ 子どもの気持ちと行動を分けて考え、育ちを応援

虐待の背景には、保護者の困難な状況や悩みが隠されている場合が多くあります。虐待はどの家庭でも起こり得る問題であることを意識し、社会全体で子どもたちを守っていきましょう。

問合せ・連絡先 こども課 こども室 ☎672-2111 内線3130
 岩手県福祉総合相談センター ☎629-9605